

令和4年度 自己点検・評価表

大項目	小項目	番号	点検項目	PowerPoint	担当	根拠資料	文章	1から5	文章	1から5	文章
							現状	自己評価	改善点	外部評価	外部の意見
1. 教育の内部質保証	自己点検評価	1	自己点検・評価を実施するための方針、体制が整備され、点検・評価の基準・項目等が設定されており、自己点検・評価が定期的に行われ、その結果が公表されているか。	総務主事	総務主事 (教育改善委員長)	1.1 長野工業高等専門学校自己点検評価の実施に関する要項 1.2 教育の質保証のための各種点検・改善システムに関する申合せ 1.3 R2年度計画 実績調査に対する自己点検評価 1.4 運営会議議事概要(工学科の3ポリシー) 1.5 1.5 執行会議議事概要(専攻科の3ポリシー) 1.6 授業改善システム(抜粋) 1.7 令和3年度教育改善報告書 1.8 令和3年度長野高専の満足度調査報告書 1.9 自己点検評価報告書 https://https://www.nagano-net.ac.jp/guide/self/index.php	・自己点検評価の実施に関する要項が定められており、6つの各種点検・改善システムの申合せに従って、自己点検・評価が行われ、その結果が公表されている。 自己点検評価項目による点検システム 年度計画項目による点検システム DP、CP、APの点検・改善システム 各委員会の重点項目の点検システム 授業改善システム 学生への支援体制点検システム	5	一部自己点検評価項目による点検システムは、令和4年度に初めて実施されるものであり、継続して実施していく。	4.2	・点検評価項目において、重要度・困難度、目標値の設定、また、主要な項目については、アウトプット(アウトカム)情報等の資料提供があれば客観的に評価できるのではないか。 ・毎年1つでもよいので、テーマを決めて校内全体で議論できる場があるとよい。 ・自己点検・評価の定期的実施に関しては、最低でも年2回は実施してほしい。 ・アンケート回収率15%は少々低いと思われる。 ・内容が多岐にわたり、短時間での説明では評価が難しい。もう少し細分化して評価を希望する。 ・今後はアンケートだけではなく、直接ヒアリングすることが必要かと思う。 ・アンケートは、卒業生などにやみくもに送るのではなく、研究室などにピックアップしてもらったところに対して行うようにすると回答率が上がると思う。 ・自己点検・評価表からのイメージしか持てませんが、回収率の低いところが気になる。内部質そのものがわからないので何とも言えないが、校内の様子から判断した。
		2	学校の構成員及び学外関係者の意見の聴取が行われており、それらの結果が、教育の質の改善・向上に繋がっているか。	総務主事	2.1 R01 卒業生企業等アンケート報告書 2.2 令和2年度 教育改善報告書 本文 2.3 令和3年度教育改善報告書	・令和元年度にアンケート調査を実施し、意見聴取が行われ、要望等を各委員会に教育改善委員会より提言した。	3	アンケートの回収率が15%ほどであり、高めることが望まれる。			
	3つのポリシー	準学士課程、専攻科課程それぞれについて、卒業(修了)の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)、入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)が定められており、社会の状況等の変化に応じて見直されているか。	教務主事	教務主事 専攻科長	3.1 準学士課程および専攻科の3つのポリシー(ホームページ掲載) 3.2 執行会議等の各種資料	・令和3年度に、改組新学科である工学科の3ポリシーを新たに策定し、現行の5学科および専攻科のアドミッションポリシーに入学選抜の基本方針を入れる修正を行った。 ・専攻科については、令和4年度は方針および教育課程の見直しは行っていない。引き続き社会の状況の変化に応じて見直しを行う。	5	社会状況に応じて見直ししていく。			
2. 組織及び教員・教育支援者	学校組織	4	教育活動を展開する上で必要な運営体制が適切に整備され、機能しているか。	事務部長	事務部長	4.1 組織図 4.2 内部組織規則 4.3 校務分掌一覧 4.4 会議資料(議事概要)	・本校の使命・目的を達成するために、教育研究の基本的な組織が適切に構成され、各組織においても適切な関連性が保たれている。	4	教育研究活動の充実及び社会の要請等に対応していくため、必要に応じ適切に見直ししていく。	3.9	・学生の満足度も重要ですが、職員の満足度も高める視点も大切。 ・評価基準が少々あまい。 ・FDの効果検証は時間がかかるものと思いますが、何らかの評価は必要。 ・学校内の組織、役割りを理解していないので評価が難しい。 ・専門知識のある職員が多く配置されていることは学生にとってとてもよい環境である。 ・自己点検・評価表からのイメージしか持てません。具体的評価手法の検討があげられますが、評価項目の流動性はいつもあることだと思います。
	教員等の配置	5	準学士課程、専攻科課程において、一般及び専門の教員並びに教育支援者が適切に配置されているか。	教務主事	教務主事 専攻科長 事務部長	5.1 【抜粋】2022学校要覧(組織図・専任教員一覧) 5.2 2022後期本科専攻科時間割 5.3 特例の適用認定を受けた専攻科における教育の実施状況等の審査に係る基本データ(別紙1) 5.4 学則別表第3-6(専攻科) 5.5 専攻科教員氏名経歴概要等を記載した書類 5.6 学修総まとめ科目「特別研究II」課題一覧	・準学士課程においては、一般及び専門の教員を各科目担当者として配置し、必要に応じて技術支援部より技術職員を配置している。 ・専攻科課程においては、生産環境システム専攻に機械工学、電気電子工学、土木工学を専門とする教員を、電気情報システム専攻には電気電子工学を専門とする教員を配置した。	4	学科再編による変更点を確認し適切に配置していく。		
	教員の評価	6	教員の採用や昇任に関する基準があり、適切な運用がされており、教員の教育研究活動に対して、定期的な評価が行われているか。	教務主事	校長 教務主事	6.1 長野工業高等専門学校教員選考基準 6.2 長野工業高等専門学校における教員の昇任選考に係る取扱い 6.3 長野高専における教職員顕彰に関する申合せ	・教員の採用や承認は、これらに関する基準に則り行われている。 ・年度当初の業務計画や研究業績一覧等により、教員の教育研究活動に対する評価を実施している。	4	必要に応じて基準を見直しながら適切な評価等を継続していく。		
	FD活動	7	FD・SD活動が実施され、改善等に結びついているか。	総務主事	総務主事 (教育改善委員長)	7.1 令和3年度教育改善報告書	・令和3年度は計4回のFD研修会を実施した。FD・SDは実施されているが、教育およびその支援等の具体的評価手法が定められていない。	3	教育およびその支援等の具体的評価手法について検討する。		

大項目	小項目	番号	点検項目	PowerPoint	担当	根拠資料	現状	自己評価	改善点	外部評価	外部の意見
3. 学習環境及び学生支援	学習環境	8	学校の施設・設備が整備され、適切な安全・衛生管理の下に有効に活用されているか。		事務部長	8.1 施設利用実態調査 8.2 令和4年度第1回安全衛生委員会議事要旨	・学校の施設・設備が整備され、適切な安全・衛生管理の下に有効に活用している。	4	学校の施設・設備の有効活用を図るため、長期的展望に立ち、環境に配慮した計画的、積極的な整備を行う。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・学生のアントレプレナーシップ、特に社会起業家的精神を教えることは、今後不確実性が増す社会においても日本の教育においても非常に重要な要素となる。 ・起業やスタートアップを目指す学生に対する支援の充実を期待。 ・あらゆる方向から学生支援サポートを最優先に行って下さい。 ・情報セキュリティは公私区別することは課題です。 ・メンタルヘルスは担任+チューター制などとあわせて行うと良い。 ・図書以外にもインターネット上の有用な情報もライブラリー化したらどうか。 ・昔に比べてメンタル面で弱くなった学生が多いような気がする。社会に出て一番問題となる課題なので学校としてメンタル教化の取り組みをしていただきたい。 ・状況に応じて検討しながら継続してほしい。 ・自己点検・評価表からのイメージしか持てません。学校の校内配置の案内があったり、外部から来る人への配慮がないように思う。どこでどんな活動がなされているのかオープンになっているといい。
		9	学生のニーズに対応したICT環境が十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されているか。		教務主事 (情報教育センター長) 総務主事 (教育改善委員長)	9.1 令和3年度長野高専の満足度調査報告書 9.2 BYOD購入依頼文書 9.3 BYOD+PCに関する学生アンケート 9.4 (簡易版)スイッチ AP 配置図 20221107 9.5 ネットワーク接続マニュアル 教職員 9.6 校内無線LANへの接続方法 Windows10 9.7 長野高専 情報システム関連 FAQ(学生向け)	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の満足度調査が行われ、有効に活用できている。 ・令和3年度の1年生から、BYOD (BringYourOwnDevice:個人所有端末)を導入し、学生個人のPCを授業に活用している。BYODを推進することにより、PCなどの情報機器をより身近なものとし、卒業までの在学中にICTを活用するスキルを高めるのみならず、最新のPC環境を学生が利用できるようになった。 ・全学生を対象としたBYODの無線LAN環境を提供している。 ・認証方式をIEEE802.1x認証としてセキュアなネットワーク接続環境を提供している。 	4	今後も継続する		
		10	図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されているか。		総務主事 (図書館長)	10.1 令和2年度図書館蔵書統計 10.2 学校要覧図書館のページ【2022学校要覧から抜粋】 10.3 令和3年度後期図書館利用状況報告	<ul style="list-style-type: none"> ・図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料を教員からの推薦により購入し系統的に整理し、有効に活用されている。 令和3年度の状況 ・蔵書総数 82,387冊(令和2年度:74,348冊) ・入館者数 34,100人 ・退出冊数 5,404冊 ・帯出者数 2,766人 	4	今後も継続する		
		11	新入生、留学生、編入生に対して、履修や施設・設備等に関するガイダンスを実施しているか。		教務主事 専攻科長	11.1 新入生の年度当初の日程について 11.2 新入生のための学習のアドバイス 11.3 令和4年度専攻科ガイダンス実施要領 11.4 外国人留学生生活ガイドブック	<ul style="list-style-type: none"> ・準学士課程においては、新入生、留学生、編入生に対しては、授業開始までに、ガイダンスを実施している。 ・専攻科課程においては、1年生は入学式当日に、2年生については別途機会を設けてガイダンスを実施した。2年生については学位申請ガイダンスも実施している。 	4	様々な変更点を含め、適切なガイダンスの実施を継続する。		
		12	学生の自主的学習を進める上での相談・助言等を行う体制が整備され、機能しているか。		教務主事 専攻科長 学生相談室長 総務主事(教育改善委員長)	12.1 学級担任ガイドブック 12.2 学生相談室報告 12.3 2021年度メール目安箱投書メール対応状況一覧 12.4 令和3年度長野高専の満足度調査報告書 12.5 内部規則規程(専攻長) 12.6 専攻科1年生面談予定	<ul style="list-style-type: none"> ・準学士課程においては、学級担任制により、学生の相談・助言を行っている。 ・メール目安箱等、学生の意見や苦情を受けるシステムが構築され、対応は遅延なく行われている。 ・専攻科課程については、専攻長および専攻科長が相談・助言を行っている。 	4	学級担任ガイドブックの確認や見直しを継続して進める。学校としての体制を、学生に周知する仕組みを検討する。		
		13	特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援及び生活支援等が行われているか。		教務主事 専攻科長 グローバル教育推進センター長 (国際交流センター長) 学生相談室長	13.1 令和4年度第1回国際交流センター会議議事概要 13.2 外国人留学生チューターの手引き 13.3 相談室会議資料 13.4 障害のある学生に対する特別支援	<ul style="list-style-type: none"> ・入学前に保健調査票による保護者からの申し出等により特別な支援を必要とする学生を把握し、入学時より支援可能な体制を整えている。 ・留学生(3・4学年)に対してはチューターを選考し、学習と生活の支援を計画通りに実施している。また、留学生の生活支援として、寮務委員と留学生の近況の情報を共有することし連携体制を整えた。 ・専攻科課程については、専攻長および専攻科長が学習支援や生活支援を行っている。 	4	各学生の状況に応じて支援を行っている。今後も継続する。		

大項目	小項目	番号	点検項目	PowerPoint	担当	根拠資料	現状	自己評価	改善点	外部評価	外部の意見
学生支援	学生支援	14	学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言等を行う体制が機能しているか。		学生主事 専攻科長 学生相談室長	14.1 学生相談室報告 14.2 経済支援実績R04学生支援委員会議事概要 14.3 学生支援委員会資料 14.4 学生支援委員会資料 別冊奨学金等の構内基準一覧 14.5 経済支援周知チラシ保護者向け 14.6 学級担任業務ガイド	・本科生に対しては学級担任をおき、また専攻科生に対しては専攻長が、きめ細かな指導・支援を行っている。また、学級担任業務ガイドをつくり(随時更新し)、社会状況に応じた指導・支援を行っている。さらに、個別の問題については学生相談室と連携して支援を行なっている。	4	個別の問題にチームで対応することになるが、専門家を含めたチーム内の連携を高めていく。		
		15	進路指導およびキャリア教育の体制が機能しているか。	学生主事	進路支援室長	15.1 進路支援室会議議事概要 15.2 実務訓練の手引き 15.3 進路選択ガイド	・本科生に対しては学級担任や系長(学科長)が、専攻科生に対しては専攻長や専攻科長が、きめ細かな指導・支援を行っている。また、学生向け進路選択ガイドをつくり(随時更新し)、状況に応じた指導・支援を行っている。 ・本科生の実務訓練は教務委員会と4学年会が中心となり、また専攻科生の学外実習は専攻科運営委員会が中心となって支援を行なっている。 ・令和4年度から進路支援室が中心となってキャリア講演会、進路講演会、卒業生講演会、進路説明会を実施している。	4	本年度から進路支援室を新設し、支援体制を強化していく。		
		16	課外活動に対する支援体制が、適切に機能しているか。	学生主事	学生主事	16.1 2022年度部・同好会の指導に関するガイドライン 16.2 部・同好会指導教員一覧 16.3 ケガ等報告書 16.4 長野高専課外活動指導員マニュアル 16.5 課外活動指導員業務報告書 16.6 団体結成審査方針の見直し 16.7 部・同好会の校内手続き 施設使用願	ガイドラインやマニュアルをつくり(随時更新し)、適切な支援を行うとともに、校内手続きのスマート化をはかっている。 「団体結成願(申請)の許可基準について」、「部・同好会活動の継続許可基準について」(執行会議承認)等により、団体数や活動の質をコントロールし、それを支える教職員の支援体制が適切に機能するよう努めている。	4	教職員の負担軽減のため、課外活動指導員(非常勤職員)の増員を引き続き行っていく。		
		17	学生寮が、学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。	寮務主事	寮務主事	17.1 寮生会との協議会開催日程 17.2 寮生活に関するアンケート集計結果	・勉強会についてはコロナ過であるため、本年度は1回のみ開催している。 ・満足度調査は実施している。 ・寮生会との懇談会は月に1回程度実施している。	4	今後、勉強会の実施回数を増やしていく。		

大項目	小項目	番号	点検項目	PowerPoint	担当	根拠資料	現状	自己評価	改善点	外部評価	外部の意見
4. 準学士課程の教育課程・教育方法・学習成果	教育課程の編成	18	カリキュラム・ポリシーに基づき、教育課程が体系的に編成されているか。	教務主事	教務主事	18.1 教育課程表 18.2 系統図	・カリキュラムポリシーに基づき、理数系基礎科目及び人文社会系の教養科目は低学年を中心に、工学系の科目は高学年を中心に体系的に配置している。	4	学科再編後のカリキュラムについて、さらに整備を進める。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・理工系学生に求めるのは専門性はもちろんですが、自分で考え行動すること、さらにメンタルに強い人物になることです。 ・学習成果の見える化が課題となります。 ・文理融合教育を望む。 ・小項目No20の改善点に「新たな教育手法……」とあるが、取り組み案などがあつたら提示して欲しい。
		19	教育課程には、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請に対応した科目、創造力・実践力を育む科目、異文化や地域の文化を理解する科目などが配置されているか。			19.1 教育課程表 19.2 系統図 19.3 シラバス(科目の抜粋)	・実践的な問題解決型学習、アクティブラーニング、実験実習、卒業研究などにより、課題の発見能力、解決能力、及び論理的に表現する能力を育成する授業科目を編成している。 ・異文化理解、コミュニケーション力を育成する授業科目を編成している。	4	学科再編により対応させて配置したカリキュラムの確認を継続する。		
	授業形態、学習指導法	20	教育内容に応じた、適切な学習指導上の工夫がなされているか。	教務主事	教務主事	20.1 授業公開(教員相互参観)アンケートより(抜粋)	・主体的な学習活動に向けた教材の利用や、新たなオンライン教材の活用、遠隔授業でも利用できるカメラやPCの設置など、様々な工夫を行っている。	4	新たな教育手法とあわせて、教育改善を継続して進める。		
		21	カリキュラム・ポリシーに沿って、適切なシラバスが作成され、活用されているか。			21.1 シラバス(科目の抜粋) 21.2 授業改善システム(抜粋)	・カリキュラムポリシーに沿って設定された到達目標を記したシラバスを作成し、活用している。	3	再編によるWebシラバスの問題点にも対応しながら改善を進める。		
	成績評価・進級及び卒業判定	22	成績評価・単位認定及び卒業認定の各基準が学生等に周知されているか。	教務主事	教務主事	22.1 教育課程表 22.2 シラバス(科目の抜粋)	・シラバスにおいて、成績評価および単位認定の基準を明記している。 ・教育課程表において、進級および卒業認定の基準を明記している。	4	必要に応じて改善を進める。		
		23	成績評価は適切に行われているか。			23.1 シラバス通りに成績評価が行われているかの一例 23.2 授業改善システム(エビデンスのチェック)	・各教員により成績評価が行われ、教育改善委員会によりエビデンスの確認を行っている。 ・成績評価がシラバス記載の通りに実施されているかの自己点検、および教育改善委員会におけるチェック体制と整えられ、適切に実施されている。	4	点検がより効果的に運用できる体制を検討する。		
		24	進級判定、卒業認定が適切に行われているか。			24.1 成績判定会議の開催 24.2 年度末成績一覧	・卒業、進級判定のための資料を作成し、教員会議において確認している。	5	必要に応じて改善を進める。		
	学習・教育の成果	25	ディプロマ・ポリシーに沿った学習・教育の成果が認められるか。	教務主事	教務主事	25.1 R3学生表彰受賞者一覧 25.2 R3特別敢闘賞受賞者一覧 25.3 年度末成績一覧	・各科目の平均点、卒業研究発表、学生表彰により、学習・教育の成果を確認している。	4	必要に応じて改善を進める。		
		26	卒業時の学生および卒業生・進路先関係者からの意見聴取で、ディプロマ・ポリシーに沿った学習・教育の成果が認められるか。			26.1 R3学習・教育目標の達成度自己評価調査票のまとめ 26.2 R3卒業生・修了生アンケート分析 26.3 R01卒業生企業等アンケート報告書	・卒業時の学習・教育目標達成度自己評価、ならびに卒業生・企業等アンケートにより確認している。	3	回答率の改善に向けて、新設した教学IR室を中心にさらに体制を整える。		
		27	卒業後の進路状況から判断して、学習・教育の成果が認められるか。			27.1 R3年度進路指導報告書 27.2 R3進路先一覧	・進路指導報告書の就職先および進学先から、学習・教育目標の成果が認められる。	4	必要に応じて改善を進める。		

大項目	小項目	番号	点検項目	PowerPoint	担当	根拠資料	現状	自己評価	改善点	外部評価	外部の意見
5. 専攻科課程の教育課程・教育方法・学習成果	教育課程の編成	28	カリキュラム・ポリシーに基づき、教育課程が体系的並びに準学士課程との連携および発展的に編成されているか。	専攻科長	専攻科長	28.1学則別表第3-6(専攻科) 28.2教育課程系統図	・融合複合・新領域で教育課程を編成しているため、系統図上は本科と結ばれていないが、本科で基礎的なことを学び、専攻科で応用的なことが学べるよう教育課程を編成している。	4		4	<ul style="list-style-type: none"> ・理工系学生に求めるのは専門性はもちろんですが、自分で考え行動すること、さらにメンタルに強い人物になることです。 ・文理融合教育を望む。 ・ダブルディグリー制度がもっと評価されると良い。 ・本科が学科再編されたので、専攻科とのつながりも一工夫し、更に良い学習環境が整備されればと思う。 ・自己点検・評価表からのイメージしか持てません。シラバスが長野独自のものなのかわかりませんが、高専機構の存在が気になります。学生の持っているスキルが素晴らしいと思う。
		29	教育課程には、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請に対応した科目、創造力・実践力を育む科目、異文化や地域の文化を理解する科目などが配置されているか。			専攻科長	29.1 シラバス抜粋	・授業科目の内容については、シラバス作成時に内容の検討を依頼している。また、社会からの要請に対応し、創造力・実践力を育む科目として「機能デザイン」、「学外実習」、「実践工学演習」を実施、異文化や地域の文化を理解する科目として「英語特論Ⅰ・Ⅱ」を実施している。	4		
	授業形態、学習指導法	30	教育内容に応じた、適切な学習指導上の工夫がなされているか。	専攻科長	専攻科長	30.1 第13回委員会資料(R03専攻科運営委員会後期活動概要)	・ICT機器、遠隔授業、授業のアーカイブ作成など工夫している。	4			
		31	カリキュラム・ポリシーに沿って、適切なシラバスが作成・活用され、研究指導が適切に行われているか。			専攻科長	31.1 生産環境システム専攻シラバス 31.2 電気情報システム専攻シラバス 31.3 学修総まとめ科目の授業に関する実施計画書 2022生産環境 機械工学 31.4 学修総まとめ科目の授業に関する実施計画書 2022生産環境 電気電子工学 31.5 学修総まとめ科目の授業に関する実施計画書 2022生産環境 土木工学 31.6 学修総まとめ科目の授業に関する実施計画書 2022電気情報 電気電子工学 31.7 R04特別研究ⅠⅡ発表会実施要項	・カリキュラム・ポリシーに沿ってシラバスを作成している。また、授業開始時にシラバスの内容を説明するとともに、授業実施のスケジュールの説明等に活用している。 ・大学改革支援・学位授与機構の認定を受けた個表を持つ指導教員が研究指導を行うとともに、研究成果を特別研究発表会において発表させている。	4		
	成績評価・修了判定	32	成績評価・単位認定及び修了認定の各基準が学生等に周知されているか。	専攻科長	専攻科長 総務主事 (教育改善委員会)	32.1 R4専攻科学生便覧	・成績評価および単位認定についてはシラバスを使って説明している。修了認定については年度当初のガイダンスで学生便覧掲載の学則別表3～6を説明している。	4			
		33	成績評価は適切に行われているか。			33.1 シラバス通りに成績評価が行われているかの一例 33.2 授業改善システム(エビデンスのチェック)	・成績評価がシラバス記載の通りに実施されているかの自己点検、および教育改善委員会におけるチェック体制と整えられ、適切に実施されている。 ・エビデンスの提出を受け、成績評価が適切に行われているか教育改善委員会で点検している。	4	点検活動がより効果的に運用できる体制を検討する。		
		34	修了認定が適切に行われているか。			34.1 R3専攻科「産業システム工学」プログラム修了判定資料	・専攻科運営委員会および教員会議で確認した後、執行会議で修了判定を行っている。	5			
	学習・教育の成果	35	ディプロマ・ポリシーに沿った学習・教育の成果が認められるか。	専攻科長	専攻科長	35.1 R3 専攻科2年生・総合判定表 35.2 R4.3連携教育P修了判定資料	・ディプロマ・ポリシーに沿った学習・教育の成果が認められ、27名全員の専攻科修了を認めた。また、JABEEプログラムは25名、連携教育プログラムは2名の修了を認めた	4			
		36	修了時の学生および卒業生・進路先関係者からの意見聴取で、ディプロマ・ポリシーに沿った学習・教育の成果が認められるか。			36.1 R03専攻科修了生到達度調査 AP 36.2 R03専攻科修了生到達度調査 AE 36.3 R03ルーブリック形式による学習・教育目標の達成度評価確認表(学生用, 20200304) 36.4 R03学習・教育目標の達成度評価確認(E渡辺)	・ディプロマ・ポリシーに沿った学習・教育の成果は、修了時の学生面談や達成度評価確認表等で確認した。	4			
		37	修了後の進路状況から判断して、学習・教育の成果が認められるか。			37.1 専攻科の修了状況 37.2 過去5年間の学位取得状況と進路決定状況(H30-R3) 37.3 専攻科の就職状況 37.4 専攻科の進学状況 37.5 特例の適用認定を受けた専攻科における教育の	・大学改革支援・学位授与機構に学位申請した25名全員の学士(工学)が授与された。また、豊橋技術科学大学との連携プログラム生2名は同大から学士(工学)が授与された。 ・進路は全員就職または進学が決定しており、学習・教育の成果を確認した。	4			

大項目	小項目	番号	点検項目	PowerPoint	担当	根拠資料	現状	自己評価	改善点	外部評価	外部の意見
6. アドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れ	準学士課程の学生の受け入れ	38	アドミッション・ポリシーに沿って適切な入学選抜方法が適切に実施されているか。		教務主事	38.1 令和5年度長野高専入学募集要項(抜粋) 38.2 R5推薦選抜実施要領(抜粋) 38.3 R4学力選抜実施要領(抜粋)	・科学技術への関心を持つことを出願資格に明記し、調査書および面接により推薦選抜を実施している。 ・数学、理科、英語に傾斜配点を行った学力検査と調査書により学力選抜を実施している。	3	アドミッションポリシーに沿って選抜を実施しているが、合致する形に向けては改善の余地がある。	3.4	<ul style="list-style-type: none"> ・入学志願者確保の取組として、高専の特徴や魅力の発信を積極的に行うとともに、特に、高専における女子学生の存在をアピールし、女子中学生の理系進路選択を後押ししていただきたい。 ・受検者数増加対策を期待。 ・新たな手法も検討してください。 ・中学校だけでなく、小学校へも説明をする必要あり(出前授業の実施はあるようですが、もっと増やすか、学校紹介をした方が良い。) ・高専卒業生による紹介、経験談なども必要。 ・経済界(産業界含む)へのアピールも必要。 ・教学IRなどにより強みの分析などから特徴のアピールをすると良い。 ・アドミッションポリシー、ディプロマポリシーなど教育専門用語は欄外にでも簡単な説明が欲しい。 ・中学生に向けた広報活動は新たな観点や方法で、積極的に行っていくてもよいのでは。(中学校へ出向いての説明会の際は、職員のみではなく学生のかも借り、学生目線でのアピールを直接的に行っていく等) ・自己点検・評価表からのイメージしか持てません。学部が工業系だけに、なったことも今回初めて知りましたが、この事が特化した理念に通じると思っています。また、進路選択の多様性も売りになると思う。
		39	入学者が、アドミッション・ポリシーに沿っているか検証し、その結果を入学選抜の改善に役立っているか。		教務主事	39.1 教学IR室報告(R4入学選抜)	・教学IR室を新設し、入学者の追跡調査ならびに選抜方法の改善への検討をしている。	3	今年度、教学IR室を新設し、これまで以上に検証を進めることとしている。		
		40	受検者数増加対策は効果的に行われているか。	入試広報室長 教務主事 総務主事(広報企画室) 男女共同参画推進室長	40.1 R4一日体験入学実施案 40.2 令和4年度入試広報活動実施状況(入試広報室会議資料) 40.3 男女共同参画推進の事業例	<ul style="list-style-type: none"> ・一日体験入学を実施し、中学生は学科再編を行った工学科のすべての系での体験授業に参加した。 ・中学校での対面での説明会、およびオンラインでの説明会を実施し、動画をホームページでも公開している。 ・出前授業の実施は、長野高専を多くの小中学生に知ってもらう機会となっている。 ・東京2020/パラリンピック「車いすバスケットボール男子」に日本代表として出場した藤澤深先生による特別講義を開催した。 	4	新たな手法の検討も進める。			
	専攻科課程の学生の受け入れ	41	アドミッション・ポリシーに沿って適切な入学選抜方法が適切に実施されているか。		専攻科長	41.1 R5専攻科学生募集要項	・アドミッション・ポリシーに沿って適切な入学選抜方法が適切に実施している。	4			
		42	入学者が、アドミッション・ポリシーに沿っているか検証し、その結果を入学選抜の改善に役立っているか。		専攻科長	42.1 専攻科における過去5年間の休学者および退学者	・過去5年間における退学者が1名であり、アドミッション・ポリシーに沿った選抜ができています。	3	入学選抜の改善に役立てた具体例はない。今後検証する。		
		43	受験者増加対策は効果的に行われ、入学定員と実入学数との関係の適正化が図られているか。		専攻科長	43.1 R04 4年生進学講演会実施要項 43.2 学校要覧2022抜粋 入学志願者入学状況 43.3 特例の適用認定を受けた専攻科における教育の実施状況等の審査に係る基本データ(別紙1)	<ul style="list-style-type: none"> ・12月に本科4年生に対して進学説明会を実施している。 ・過去5年間の定員充足率は、生産環境システム専攻が140.0%、電気情報システム専攻が142.5%と多めである。 	3	大学改革支援・学位授与機構からは130%程度となるよう指導されており、改善したい。		
7. 研究活動の状況	研究体制と支援体制	44	研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。		研究主事	44.1 長野工業高等専門学校における研究活動に関する目的・基本方針および目標 44.2 特別経費運用方針および申請通知 44.3 令和4年度科研費申請書添削支援状況 44.4 RAの雇用に関する取扱いについて	<ul style="list-style-type: none"> ・特別経費配分による教育研究活動支援を実施している。 ・科学研究費補助金申請書の添削支援を実施している。 ・リサーチアドミニストレータによる研究活動支援や企業との共同研究マッチングを実施している。 	4		3.9	<ul style="list-style-type: none"> ・社会ニーズを踏まえた特色ある研究活動を期待。 ・研究活動へのエフォートを更に高めていただきたい。 ・長野高専の強みとする技術は何か、目標設定して欲しい。 ・10年後を見据えた技術は何か、地域振興・産学連携を見据えた研究開発と推進をお願いしたい。 ・経済界への説明アピールをお願いしたい。 ・大学との連携についてお願いしたい。 ・世界の環境、情勢が目まぐるしく変化する中で求められる研究テーマを先取りして取り組むことで予算確保もできるのではないかと。(時代遅れのテーマはやめる。) ・自己点検・評価表からのイメージしか持てません。企業との協働をもっと進めてみてはどうか。起業できる学生が誕生すると良い。
	研究活動の成果	45	研究活動の目的等に沿った成果が得られているか。		研究主事	45.1 令和4年度長野高専シーズ集 45.2 令和3-4年度科研費および共同研究等受入れ状況 45.3 令和3年度研究業績等一覧	<ul style="list-style-type: none"> ・シーズ集の発行および技術振興会会員向け配布や産業展等での配布および説明を実施している。 ・研究業績の収集および公開等を通じて研究活動の状況把握を実施している。 	4			
	研究活動の改善	46	研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っているか。		研究主事	46.1 研究推進委員会規則 46.2 研究倫理委員会規則	<ul style="list-style-type: none"> ・研究推進委員会を発足させ、研究業績等の収集や知財管理、外部資金獲得支援や紀要発行体制を整備した。 ・研究倫理委員会を発足させ、研究倫理審査等の体制を整備した。 	4	各委員会設置が9月であったため、研究推進委員会の主な業務は次年度以降の活動となる予定。		

大項目	小項目	番号	点検項目	PowerPoint	担当	根拠資料	現状	自己評価	改善点	外部評価	外部の意見
8. 地域貢献活動等の状況	地域貢献活動の計画	47	地域貢献活動が適切に定められ、計画的に実施されているか。		総務主事 研究主事	47.1 長野工業高等専門学校における地域貢献活動等に関する目的・基本方針および目標 47.2 令和3年度広報企画室の活動計画・取組結果【令和3年度教育改善報告書から抜粋】 47.3 令和4年度地域共同テクノセンター事業(ご案内) 47.4 令和4年度地域共同テクノセンター層	・長野高専における地域貢献活動等に関する目的・基本方針および目標を定めている。 ・サイエンスツアー(出前授業)、サイエンス・ライブ(公開講座)、学外開催の各種科学イベント、県内各地の産業フェア等に計画の上、出展している。 ・テクノセンターにおいて44のリカレント教育事講座等を企画し実施中。	5	令和3年度までコロナ禍で地域貢献活動に制約があったが、令和4年度は徐々に制約が少なくなりつつあり、感染予防に配慮しながら実施を継続していく。	3.8	<ul style="list-style-type: none"> ・地域貢献・連携の取組や学生生活等について、積極的な広報活動を行うことで、高専の特徴や魅力を地域社会に伝えることが出来ると思う。 ・経済界への説明アピールをお願いしたい。 ・中信/南信へのアピール不足(学生受け入れについても同じ) ・良く産学連携がなされていると思う。 ・コロナが収束すればより活発になることを期待。 ・コロナ禍も抜け出しつつあるので、地域産業に更なる貢献を。 ・コロナ5類になってからの実施状況に期待。継続を。 ・自己点検・評価表からのイメージしか持てません。この地に高専さんがあることを高専機構の枠にとらわれずやれる事を工夫しないと地域貢献活動の特色を出すことは難しいと思う。
	地域貢献活動の成果	48	地域貢献活動の目的等に沿った成果が得られているか。		総務主事 研究主事	48.1 令和3年度広報企画室の活動計画・取組結果【令和3年度教育改善報告書から抜粋】 48.2 令和4年度地域共同テクノセンター講座実施計画	・サイエンスツアー(出前授業)、サイエンス・ライブ(公開講座)、学外開催の各種科学イベント、県内各地の産業フェア等において、産業界、地方公共団体、コミュニティ、他の教育機関と連携することにより、社会活動に貢献している。 ・蓄積してきた技術開発や研究の成果をリカレント教育により地域社会に還元し、地域の発展に務めている。 ・リカレント教育講座等に企画担当者を設置し、講座内容の充実や改善を行った。	4	今後も継続していく		
	地域貢献活動の改善	49	地域貢献活動の実施状況や問題点を把握し、改善を図っているか。		総務主事 研究主事	49.1 令和3年度広報企画室の活動計画・取組結果【令和3年度教育改善報告書から抜粋】 49.2 令和3年度地域共同テクノセンター講座アンケート結果	・地域貢献活動の実施状況を把握するとともに、アンケート調査を実施し改善を図っている。	4	今後も継続する		
9. 財務及び管理運営と情報公開	財務関係	50	適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されているか。	事務部長	事務部長	50.1 2022予算配分方針(確定版)	・適切な収支に係る計画等を策定し、学内に明示している。	4		4	<ul style="list-style-type: none"> ・限られた人的、財政的資源の優先順位を意識した運営に期待。 ・もっと経済界(経営者協会など)を利用すること。 ・大項目1の教育の内部質保証PDCAをしっかりと回して、課題に対して優先順位をつけて予算執行をしてください。 ・自己点検・評価表からのイメージしか持てません。長野高専基金の話もありましたが、企業とコラボして商品開発をしてみてもどうか。トピックは学校の知名度を上げると思う。
		51	適切に予算が配分され、その執行状況の確認が行われているか。		事務部長	51.1 2022学内当初予算配分(確定版)	・適切に予算を配分し、執行状況の確認を行っている。	4	学校運営上の課題を把握し、予算の適正な配分に努める		
		52	適切に予算が執行され、その結果が公表されているか。		事務部長	52.1 HP:情報公開 学校案内 国立長野高専	・適切に予算を執行し、法令上、公表が義務付けられている書類については、その結果を公表している。	4			
	管理運営	53	各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているか。	事務部長	事務部長	53.1 内部組織規則 53.2 各委員会規則 53.3 事務組織及び事務分掌規則 53.4 令和3年度教育改善報告書	・各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動している。	4			
		54	情報セキュリティを含む危機管理等の安全管理体制が整備されているか。		総務主事 事務部長	54.1 リスク管理室規則 54.2 サイバーセキュリティ管理・推進・教職員規則 54.3 2022年度防災マニュアル(防災訓練用組織図あり) 54.4 情報セキュリティ利用者規則	・情報セキュリティを含む危機管理等の安全管理体制が整備されている。	4			
		55	管理運営に関わる職員の資質の向上を図るための取組が組織的に行われているか。		事務部長	55.1 管理運営等の研修会への参加リスト	・管理運営に関わる資質の向上を図るため、機構本部が実施する研修等への参加を積極的に行っている。	4			
		56	外部資金を積極的に受入れる取組を行っているか。		研究主事	56.1 特別経費運用方針、申請通知および配分結果 56.2 令和4年度科研費申請書添削支援状況	・外部資金公募の周知や科研申請支援として添削支援を実施した。	4	外部資金公募情報の周知や申請促進活動がさらに必要。		
	57	外部の教育資源を積極的に活用しているか。	研究主事	教務主事 専攻科長 研究主事	57.1 実務訓練の手引き	・準学士課程4年次では、夏季休業中に様々な企業・機関において実務訓練を実施した。 ・専攻科課程においては、学外実習では企業等で540時間実習を行った。また、実践工学演習では企業等に勤務する方による講演を実施した。	4	企業・機関の協力を頂きながら継続して進める。			
情報公開	58	教育情報(学校教育法施行規則の事項を含む)が公表されているか。	総務主事	総務主事 事務部長	58.1 HP:教育情報 学校案内 国立長野高専	次のURLのホームページに掲載している。 https://www.nagano-nct.ac.jp/guide/educational/index.php	4	今後も最新の情報に更新し継続する			